

# Infinity Vol.14

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2023.8.1発行  
発行元  
龍谷大学  
社会共生実習支援室

〒520-2194  
滋賀県大津市瀬田大江町横倉1-5  
龍谷大学瀬田キャンパス内  
社会共生実習支援室  
TEL:077-544-7230 FAX:077-543-7615  
E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp



社会共生実習  
Webサイト



社会共生実習種共有会で各プロジェクトの種内容を共有し合う受講生たち

## 全プロジェクトの活動共有会をおこないました

「社会共生実習」では、7/7（金）に、全プロジェクトの受講生が一堂に会して、本実習についての話題を共有し、プロジェクトの枠を超えて一緒に悩み助け合える仲間をつくる機会として、「活動共有会」を開催しました。

普段は各プロジェクトが個々に活動をしているため、本共有会では所属プロジェクトが異なるメンバーでチームを形成し、受講生たちは自身の所属プロジェクトの紹介や「このプロジェクトを選んだ理由」をまずはチームメンバーに伝えました。続いて「活動の中で自分にとって印象的だったエピソード」、「活動を通じて気づいたことや学びになったこと」、「困っていたり悩んでいること、協力して一緒にできたらいいなと思っていること」といったテーマでプロジェクトの活動状況や展望について、キーワードを書いた付箋を「えんたくん」という段ボールの円卓に貼りながら共有しました。チームメンバーとはほぼ初対面であったにも関わらず、受講生たちはそれぞれ自主的に話はじめ、ところどころで笑いが起きたり自然と拍手が沸き起こったりと、終始和やかな雰囲気が進みました。

共有会に参加した受講生たちからは、「他プロジェクトの人も同じような悩みを持っていることがわかり、引き続き、実習活動を頑張ろうと思った」、「自分たちの悩みが他のプロジェクトと協力することによって解決できそうだと感じたので、ぜひ協力したいと思った」、「他の活動について知ることができてとても刺激を受けた」、「所属プロジェクトの内容を他者に紹介することで自分の中で理解が深まったように思った」などの感想がありました。今年度はじめて、プロジェクトを横断して横のつながりを広げる取り組みとして開催した本共有会でしたが、受講生たちそれぞれが新たな発見や新鮮な体験、自身の成長などといったさまざまな学びを得て、新しい仲間を見つけてくれる良い機会となりました。

## 受講生インタビュー

今年度「社会共生実習」を受講している学生に、受講しようと思った理由やプロジェクトの内容などを聞きました。

- ①このプロジェクトに入ったきっかけは？
- ②現在、このプロジェクトではどのような活動をしていますか？
- ③受講したことで起きた変化や身についたスキルは？
- ④部活やアルバイトと社会共生実習の活動時間の調整はどのようにしていますか？
- ⑤今後の目標やチャレンジしたいことは？



多文化共生の  
コミュニティ・デザイン  
～定住外国人にとって住み  
やすい日本になるには？～  
CM学科 2年生  
劉 東旻さん  
ユ ドンミン

①韓国にいる時に見たテレビ番組で、京都にある在日韓国人が住むウトロ地区のことを知った。その地区の歴史を知り、悲しく非常に残念に思い、いつか何か貢献できればと思っていたところ、この実習を知り受講しようと思った。  
②これまで知らなかった歴史を学び、フィールドワークを通じてその歴史の中で生きてきた人々の生活を多様な方々から話を聞きながら学んでいる。今後は実習先であるNPO法人コリアン生活センター・エルファで活動していくが、様々な文化をお互いに認め、理解することができる共生社会についても、この実習とおして学んでいきたい。また、個人的にウトロ平和祈念館でボランティア活動として、受付・掃除・お茶出し・また、韓国人観光客の訪問も多いので、祈念館のことを簡単に紹介したり、日本語を韓国語に通訳している。  
⑤私が出会った在日韓国人の方たちは、私が抱っていたイメージとは全く違い、誰よりも明るく肯定的で幸せに過ごしておられ、国籍に関係なく皆が共感できる「平和」という価値を誰よりもよくご存知のように感じた。辛い過去の歴史がある中でも明るく前向きで幸せに暮らしている人々から学んだ「平和という価値」について、自分なりに伝えていきたい。



障がいをもつ子どもたちの  
放課後支援  
現代福祉学科 3年生  
中村 光尊さん

①小学校の教員を志望しているが、小学校の通常学級の中に障がいを持つ子どもが増えているので、かかわる機会を持ちたいと思っていた。また、ゼミでインクルーシブ教育を研究しており、将来、実践していきたいと思っているため学べることが多いと思い受講した。  
②前期だけのプロジェクトのため、活動は終了している。実習先には7回行き、学びたかったコミュニケーションの取り方を学ぶこともできた。重度心身障がいを持つ、医療的ケアの必要な子どもたちへのケアの仕方を見せてもらい、言葉ではコミュニケーションが取れなくても、表情やジェスチャーなど言葉以外の方法でコミュニケーションを取れたことは非常に勉強になった。  
④クラブ活動、アルバイト共、週2日ずつおこなっている。教職課程もあるため忙しいが、事前に時間調整をすることでやりくりできている。  
⑤実際に教員になる前に現場を見ておきたいと思っているので、後期から年度末頃まで学校ボランティアをする予定。学習支援、児童支援、クラブ活動支援で先生の補助をおこない、少しでも現場の様子を知っておきたいと思っている。

今年度「社会共生実習」を受講している学生に、受講しうと思った理由やプロジェクトの内容などを聞きました。

- ①このプロジェクトに入ったきっかけは？
- ②現在、このプロジェクトではどのような活動をしていますか？
- ③受講したことで起きた変化や身についたスキルは？
- ④部活やアルバイトと社会共生実習の活動時間の調整はどのようにしていますか？
- ⑤今後の目標やチャレンジしたいことは？



地域エンパワメント・大津中央  
現代福祉学科 3年生  
ウ テツカン

①課題発見をし、他の受講生や地域の方と協力・連携しながら課題解決をしていくことに興味があり受講した。また、日本の生活環境や習慣をより詳しく知りたいと思っていたため、地域と直接かわることのできる実習を選択した。  
②4チームに分かれ、今後はそれぞれのテーマをもとに活動をしていく。自分が所属しているチームは「世代間交流」がテーマ。先日は、お世話になっている連携先の方の取り計らいで、大津中央のキッズクラブに参加し、子どもたちとバドミントンをして、とても楽しかった。今後も月1回活動があるので参加したい。  
④アルバイトはしているが、活動時間との調整はできている。  
⑤家の外に出る機会が少ない高齢者の方たちが増えているということ、子どもたちが増えているにもかかわらず、習い事などで忙しいのかあまり地域で見かけないという現状があることを知った。後期に向けて、世代間交流ができるような企画を考えていきたい。



自治体をPRしてみる！  
現代福祉学科 3年生  
岩井田 雄大さん  
2年継続受講

①創作活動に興味があり、企画力や発想力を養いたかったこと、映像制作は経験もなかったため挑戦してみたいと思い受講した。実際やってみると、ネタ決めや字幕をつけたりする編集作業に時間がかなり難しかったが、完成した動画を先生や連携先の方々に喜んでもらえたことが嬉しかったので継続受講した。  
②現在、「大阪府門真市」と「滋賀県高島市」のPR動画を作成する2チームに分かれて活動しており、自分は高島市の方の制作にかかわっている。今年度はSNSや、You Tube、Tiktokに短い動画をあげてPRしていく予定。  
③PR業界に興味を持つようになった。将来は広報やPRに携わる仕事に就きたいと思っている。また、チームのメンバーや連携先の方々と話す必要がある場面が多いため、コミュニケーション力や交渉力も身につけた。元々、第一志望校ではなかったものの、入学して「社会共生実習」を知り、このプロジェクトを受講したことでやりたいことが見つかったので受講して良かった。



障がいをもつ子どもたちの  
放課後支援  
現代福祉学科 2年生  
西田 陽香さん

①もともと放課後デイサービスでアルバイトをしているということもあり、アルバイト先と実習先との違いを知りたいと思い受講した。福祉関係に興味を持ち始めたのは、高校生の時。福祉入門という授業で福祉について少し学んだこと、高校2年生の時の親友が障がいを持っていたがとても明るく、仲良くなるうちに興味が湧いた。  
②支援対象児を1人に絞り、その子と中心にかかわることをしている。アセスメントシートなどを作成しながらかわり方を考え、実践している段階。対象になっている子は、いたずらが大好きだが、諭すと理解してくれる。楽しく活動できている。  
⑤実習で得た経験を活かして、色々なことに挑戦したい。社会福祉士など福祉職につなげていきたい。



いつになっても、出かけられる！～高齢者を元気にする介護ツアー企画～  
現代福祉学科 3年生  
西出 夕樹さん  
2年継続受講

①高齢者の方と話すことが好きだったこともあり、喜んでもらえる企画を自分でも計画してみたいと思い受講した。2年目も受講した理由は、去年のツアーを実施した際に、参加者の方がとても喜んでくださり、その時の笑顔が嬉しかったから。今年も、1度目の経験を活かしてより良いツアーを企画したい。  
③事前準備の大切さを知った。参加者の方の安全を優先して企画する必要があるため、下見や打ち合わせも入念におこない、今まではあまり気にならなかった「段差」などにも気づくようになるなど、より高齢者の視点で細かい部分も気づけるようになった。  
⑤将来は介護職に就きたいと考えているので、それに向けてできることをしていきたい。現場で実際に利用者の方とかわりながら働きたい。この実習やインターンなども経験して、より介護職をしたいと思うようになった。



農福連携で地域をつなぐ  
「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」  
社会学科 3年生  
(左) 法戸 貴義さん  
(右) 池野 史哉さん  
両者、2年継続受講

①(池野さん) 祖父母が農業をしているため、農業が身近だったこと、福祉と農業がどのように連携しているのを知りたかった。学外のサークル活動で障がいを持つ子どもたちとかわかることがあり、今年度はどちらかというと福祉関連の方にも携わりたかったため継続して履修することにした。  
(法戸さん) 祖父が米農家で、自身に障がいがあるため、「農福連携」というキーワードに惹かれた。また、昨年度が楽しかったので継続して受講した。  
③(池野さん) 農業と福祉への関心が強くなった。一つ一つの作業は地味だが、ためになる技術も多い。自分自身の得意不得意もわかるようになり、利用者の方たちとの距離感も掴めてきた。  
(法戸さん) 農福連携事業をおこなっている実習先で実施した、利用者の方へのインタビューをとおして、質問やメモの仕方も学べた。農福連携のことを知り、将来的にもこの分野の発展に携わりたいと思うようになった。



多文化共生の  
コミュニティ・デザイン  
～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～  
社会学科 4年生  
火野坂 菜さん

①人権問題を学ぶ中で在日コリアンや技能実習生のことについて知り、在日外国人の方の現状をこの実習を通して知りたいと思った。リアルに抱えている問題や、差別などから乗り越えてきた過程について学びたい。  
②在日コリアンの方の歴史についてフィールドワークなどをとおして学んでいる。また、実習の受け入れ先であるコミュニティカフェ「ほこり」での活動が始まり、メニューの仕込みなどをおこなった。これからも週1回のペースで行く予定。  
⑤初めは在日外国人の方のことを知りたいという思いから受講したが、実習を通して地域の方と交流を深めたいと思うようになった。在日外国人であるどうかにかかわらず、多様なライフヒストリーを持った人々がいることを知り、それぞれの国の文化や日本の文化と混ざり合ってきた文化にふれるために、カフェで企画されているイベントに参加し、人とかわかる中で、自分にできることを探していきたい。



お寺の可能性を引き出そう！  
～社会におけるお寺の役割を考える～  
現代福祉学科 3年生  
北川 隼士さん  
2年継続受講

①美術作品鑑賞が好きで、その一環でお寺にも足を運んだことがあったため、このプロジェクトなら何かできそうだと感じた。2年目を受講したのは、1年目に企画したイベントが納得いく形で終わらなかったため、再挑戦したくて。  
②お寺に行く機会のない若い人たちに足を運んでもらうということをお自分らの理念として活動している。昨年度企画したイベントに再度挑戦するため、企画の詳細を練っている。  
③自分の意見を言う際に、その場の思いつきで意見を出すのではなく、根拠やそう考えた経緯などもしっかりと伝えられるようになった。また、イベントの企画力や、PC能力が身についた。



コミュニティの情報発信！  
レク龍プロジェクト  
社会学科 3年生  
東 侑弥さん  
2年継続受講

①入学前からHPを通して「社会共生実習」のことは知っていたため、受講したいと思っていた。受講プロジェクトの決め手は、2022年度に開講するプロジェクト一覧を見た時に、このプロジェクトが楽しそうだと感じたので。  
③自分自身の変化としては、人見知りすることが減った。今までは、自分から人に話しかけることも少なかったが、このプロジェクトで多くの方々とかわかる中、自然と話すことに対しての抵抗もなくなっていった。また身についたスキルは、コミュニケーション能力といくつかのレクリエーションができるようになったこと。  
④野球サークルに所属している。月1の試合、週1の練習がある。アルバイトは平日週3～4日入っている。実習の日は予めわかっているの、バイトを入れないように調整はできている。  
⑤まずは、このプロジェクトで作成したSNSのフォロワー数100人を目指して周知していきたい。